

菅波 茂

れた私の哲学である」と主張した。共鳴していただき、嬉しかった。

台湾国際衛生行動隊は

外務省と保健省で構成さ

れている政府系人道支援

の医療団体である。08年

5月に発生した中国・四

川大地震の時にも救援医

療活動を実施した。台湾

と正式な国交のない国に

も積極的に医療チームを

派遣、2週間交代で長期

間の医療活動も行ってい

る。幾多の大病院で構成

する台湾病院協会が人材

を提供する。台湾の医師

は欧米留学経験者が多く、非常に臨床レベルが

高い。

さらに、中国文化を基

本として日本文化も受け

入れており、海外事情に

対して非常に柔軟性があ

る。台湾の保健医療事情

が昔から良いのは、当時

の優秀な青年が「政治に

影響されない、医学の道

を選んだから」と保健副大臣が説明された。台湾国際衛生行動隊とAMDAがアジア各国でAMDAの支部と共に、白内障手術や口唇^{くちべい}蓋裂^{けいせつ}など、眼科や形成外科手術を行うことも合意した。台湾の医療界で大きな影響力を持っておられる、日本の医科大学を卒業された70〜80歳以上の先生方から、AMDAと台湾国際衛生行動隊の協力体制に支援の表明を頂いたのは心強かった。

驚いたことに、台湾国際衛生行動隊の保健大臣直下で40歳前半の実施責任者が、同行したAMS A(アジア医学生連絡協議会)のOBである岩永資隆先生の知り合いだった。AMSAは80年に私が創設した団体である。災害時の医療チーム派遣を決定するホットラインを、私と彼との間に設置

することを決定。当時の医学生たちが今や40〜50歳になり、社会の重要な地位で活躍している現実には感無量だった。AMSAはアジア15カ国・地域の学生が参加し、毎年の国際会議には400人以上が集まる団体へ成長。OBの数はすでに5000人を越えている。アジア各地に膨大な医師の人脈が存在している。近い将来、AMDAの大切なパートナーとしての役割を果たすことを期待している。

AMDAが災害被災者救援に医療チームを派遣する理由は「相互扶助」である。台湾衛生行動隊のスローガンは「国境なき愛」である。保健副大臣に提案した。被災者救

援医療活動の時に「何故にあなたは私たちを助けるのか、何故に私はあなたを助けるのか」に答え

ることは大変重要である。「理由なき親切は誤解される」と。「愛」はキリスト教文化に基づく欧米のコンセプトである。世界人口の約20%は中国人である。中国人の文化を背景にしたスローガンを世界にアピールすべきではないかと。

多くの中国人が信仰している道教の奥義は「義」だと思ふ。日本人が中途半端に理解しているが故に真の相互理解が達成できていないのも、「義」の定義がわからないためである。「義」とは何か。簡単にわかりやすい定義をしてほしい。「相互扶助」と「義」の組み合わせを、AMDAと台湾国際衛生行動隊の協力体制の意義として世界にアピールしたい。私の提案に保健副大臣は前向きに考えることを約束してくれた。

(AMDAグループ代表)

台湾国際衛生行動隊との災害協定「相互扶助」と「義」